

## I 公立夜間中学の設置について

### 1 公立夜間中学の経緯

公立夜間中学は、戦後の混乱期の中で、生活困窮などの理由から昼間に就学できなかった方々への学び直し場として昭和 20 年代初頭に生まれたものです。

近年は、不登校など様々な事情により十分な教育を受けられないまま中学校を卒業した方や本国で義務教育を受けていない外国籍の方などに対し、義務教育を受ける機会を実質的に保障する新たな役割が期待されるようになっていきます。

このような中、平成 28 年 12 月に「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」<sup>1</sup>（いわゆる「教育機会確保法」）が成立し、全ての地方公共団体で公立夜間中学における就学機会の提供等の措置を講じることが求められることとなりました。

これを受けて、文部科学省は、全政令指定都市及び全都道府県に最低 1 校の公立夜間中学が設置されることを目指しています。

### 2 札幌市の状況について

上述のとおり、公立夜間中学への入学対象となる方々は主に

- ① 戦後の混乱期等で義務教育を未修了の方
- ② 不登校等様々な理由で十分に中学校に通えなかった方
- ③ 本国で義務教育を修了していない外国籍の方

と想定されます。

次の通り、札幌市や近隣市町村においても対象となりうる方が一定程度いるものと考えられます。

<sup>1</sup> 義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律（詳細は資料 1 を参照）

平成 28 年 12 月に成立した教育機会の確保等に関する施策に関し、基本理念を定め、国及び地方公共団体の責務を明らかにするとともに、基本指針の策定その他の必要な事項を定めた法律。

## (1) 戦後の混乱期等で義務教育を未修了の方

平成 22 年国勢調査<sup>2</sup>によると、学齢を経過した者の中で、義務教育を修了していない方が少なくとも全国で 12 万 8,000 人おり、札幌市には 2,001 人いることがわかっています。また、さっぽろ連携中枢都市圏<sup>3</sup>に該当する近隣市町村においても 1,049 人の義務教育を修了していない方がいます。

### ★ さっぽろ連携中枢都市圏の未就学者数（平成 22 年国勢調査）

市町村	未就学者数
札幌市	2,001名
小樽市	308名
岩見沢市	99名
江別市	88名
千歳市	107名
恵庭市	50名
北広島市	199名
石狩市	35名
当別町	10名
新篠津村	110名
南幌町	14名
長沼町	29名
合計	3,050名

## (2) 不登校等様々な理由で十分に中学校に通えなかった方

札幌市立中学校 3 年生における不登校生徒数<sup>4</sup>は、平成 21 年からの 10 年間で、合計 6,094 名います。全国には、通えなかった期間の中学校の学びを取り戻したいと思い、夜間中学に入学される方もいます。

<sup>2</sup> 国勢調査

国勢調査とは日本に住んでいるすべての人と世帯を対象とする統計調査です。10 年ごとの大規模調査とその中間の簡易調査があり、未就学者については大規模調査で調査を行っています。

なお、国勢調査における「未就学者」とは「在学したことのない者又は小学校を中途退学した者」の人数であり、「小学校卒業後中学校に入学しなかった者」や、「中学校を中退した者の数」は含まれていないため、義務教育未修了者は実際にはより多くの人数に上ると言われております。

<sup>3</sup> さっぽろ連携中枢都市圏

札幌市では、人口減少・少子高齢社会にあっても、圏域内の活力を維持し、魅力あるまちづくりを進めるため、2019 年から関係 11 市町村とともに、「さっぽろ連携中枢都市圏」を形成しています。

<sup>4</sup> 不登校生徒数

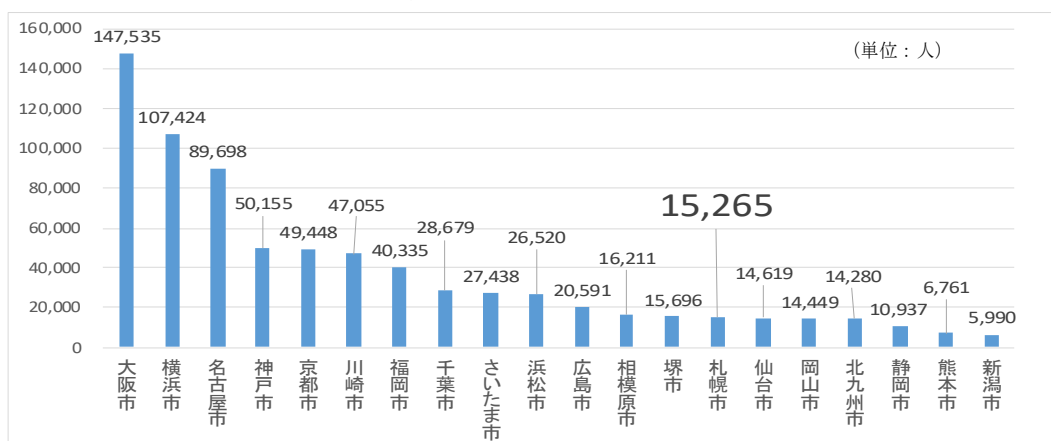
不登校生徒数とは、文部科学省において年間 30 日以上欠席した者のうち、病気や経済的な理由による者を除いたものと定義されています。

### (3) 本国で義務教育を修了していない外国籍の方

国際人権規約においては、「種々の形態の中等教育は、すべての適当な方法により（中略）一般的に利用可能であり、かつ、すべての者に対して機会が与えられるものとする。」とされており、これらを踏まえ、外国籍の方についても、日本国籍の方と同様に夜間中学における教育機会を確保することが求められます。

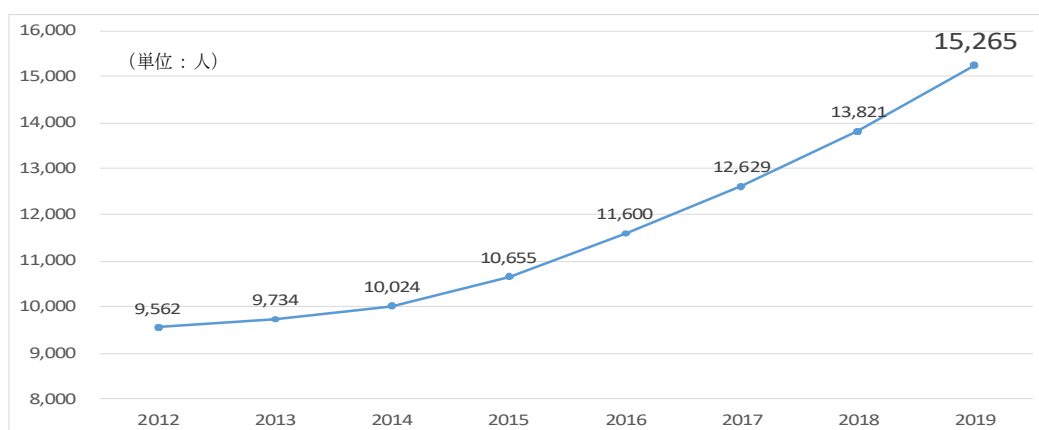
全国の20の政令指定都市の中では札幌市の在留外国人数は14番目であり、比較的少ない状況ではありますが、ここ数年は毎年1,000人以上増えており、この中には、夜間中学での学びを必要とする外国籍の方もいるものと想定されます。

#### ○ 政令指定都市の在留外国人数



(出典：法務省「在留外国人統計（旧登録外国人統計）統計表」（調査時点2019年12月））

#### ○ 札幌市における在留外国人数の推移



(出典：法務省「在留外国人統計（旧登録外国人統計）統計表」（調査時点各年12月））

### 3 札幌市における公立夜間中学の設置について

公立夜間中学の対象生徒と想定される未就学者、不登校経験者は本市においても一定程度いるとともに、外国籍市民についてもここ数年増加率が高まっていることから、札幌市においても学びのセーフティネットの役割として、公立夜間中学の設置が必要と考えられます。

以上のことから、本「基本計画」に記載する内容に基づき、札幌市立の公立夜間中学を設置することとします。

#### <参考：札幌市における検討経過>

平成 28 年 12 月 教育機会確保法成立

平成 29 年 2 月 公立夜間中学校のすみやかな設置を求める陳情（陳情第 240 号）が札幌市議会で採択

平成 29 年 10 月 北海道において、公立夜間中学における就学機会の提供その他の必要な措置などについて協議するために設置された「夜間中学等に関する協議会」に参加

平成 31 年 1 月 第 4 回協議会において、「設置主体の議論とは別に、設置場所として『札幌市内に設置』することが適当」との意見集約

⇒ 札幌市において設置に向けた具体的な検討を開始

令和 2 年 1 月 札幌市民が公立夜間中学にどのようなことを期待するのか等を把握するために「札幌市公立夜間中学に関するアンケート」を実施

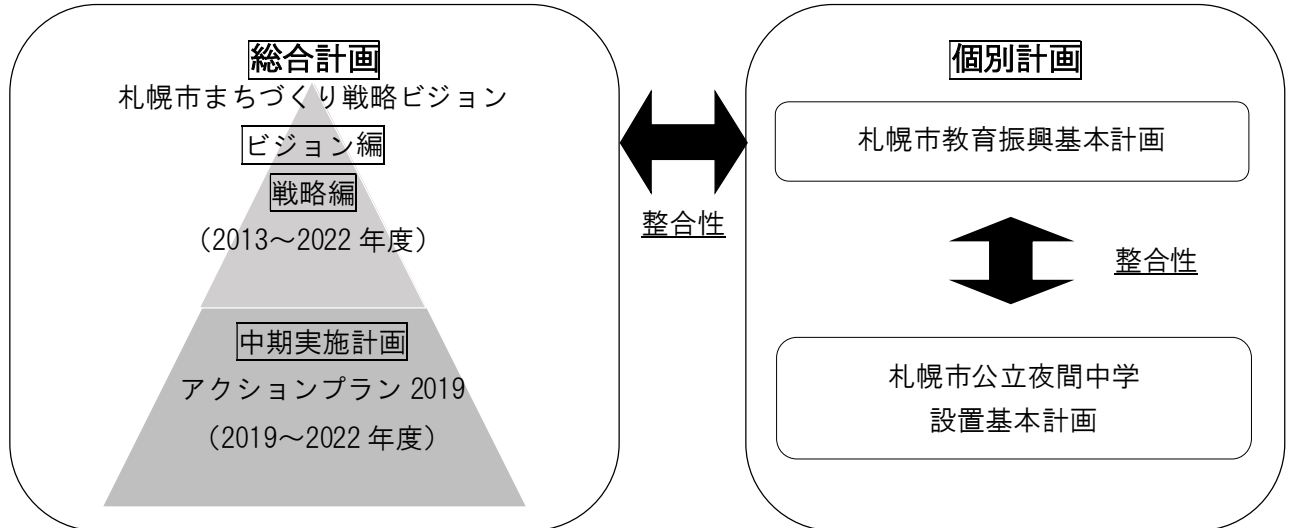
令和 2 年 6 月 有識者等からなる「札幌市における公立夜間中学の在り方検討委員会」を設置し、札幌市が目指す公立夜間中学の目指す姿等について意見聴取

## <計画の位置付けについて>

### ○ 札幌市の各種計画との関係



札幌市の総合計画<sup>5</sup>である「札幌市まちづくり戦略ビジョン」の基本的な方向性に沿って策定する個別計画<sup>6</sup>です。

公立夜間中学の設置においては、教育基本法や教育機会確保法などの関係法令のほか、「札幌市教育振興基本計画<sup>7</sup>」などの札幌市の関連計画とも整合を図って進めて参ります。



### ○ SDGs (Sustainable Development Goals 【持続可能な開発目標】)<sup>8</sup>との関連

SDGs と本計画の主な関連は下表のとおりです。

SDGs 関連目標	
 <p>4 質の高い教育を みんなに</p>	すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する。
 <p>17 パートナーシップで 目標を達成しよう</p>	持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化化する。

<sup>5</sup> 総合計画

札幌市自治基本条例第 17 条に基づき策定する、総合的かつ計画的な行政運営を図るための計画

<sup>6</sup> 個別計画

総合計画の方向性に沿って策定する各分野における計画

<sup>7</sup> 札幌市教育振興基本計画（詳細は資料 6 を参照）

札幌市教育委員会では、札幌市の教育の目標や方向性を明らかにするとともに、これらに基づき、教育に関する施策を総合的・体系的に進めていくことを目指し、本計画を 2014 年 4 月に施行しています。

「自立した札幌人」という目指す人間像の実現に向けて、「1 自ら学び、共に生きる力を培う学びの推進」「2 多様な学びを支える環境の充実」「3 市民ぐるみで支えあう仕組みづくり」に取り組んでいます。

<sup>8</sup> SDGs

2015 年 9 月の国連サミットで採択された 2016 年から 2030 年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための 17 のゴール、169 のターゲットから構成され、地球上の誰一人取り残さない (leave no one behind) ことを誓っています。2018 年 6 月に札幌市は SDGs の達成に向けた優れた取組を提案する「SDGs 未来都市」に選定され、総合的な実施計画の策定や各種取組の実施に際して、SDGs の趣旨や視点を反映させることとしています。

## II 公立夜間中学とは

### 1 公立夜間中学の一般例

他都市の先行事例を踏まえると、公立夜間中学とは一般的に以下のような学校です。

項目	内容
入学対象	○ 以下のすべてを満たす人 ・ 学齢期を過ぎた人（満 15 歳に達した日以後の最初の 3 月 31 日を過ぎた人） ・ 中学校を卒業していない人、または、卒業していても不登校等の理由により、学び直しを希望する人
指導者	○ 中学校の教員免許状を有する教員
履修教科等	○ 昼間の中学校と同じく 9 教科、特別の教科 道徳、総合的な学習の時間、特別活動 <sup>9</sup>
授業日	○ 昼間の中学校と同じく週 5 日 ○ 夏休みや冬休みなども昼間の中学校と同じ期間
授業の時間	○ 「教育課程の特例 <sup>10</sup> 」を活用し、1 コマ 40 分の 4 時間授業 ○ 始業時刻は 17：30 頃、終業時刻は 21：00 頃
卒業認定	○ 定められた課程を修了すれば、中学校卒業資格が得られる

### 2 全国の設定状況

令和 2 年度現在、公立夜間中学は 10 都府県に 34 校が設置されています。

最近では、令和元年度に埼玉県川口市、千葉県松戸市、令和 2 年度に茨城県常総市で開校されており、令和 3 年度には、徳島県、高知県で開校予定となっております。そのほか、相模原市、静岡県、長崎県、福岡県大牟田市などにおいても設置に向けた具体的な検討が進められています。

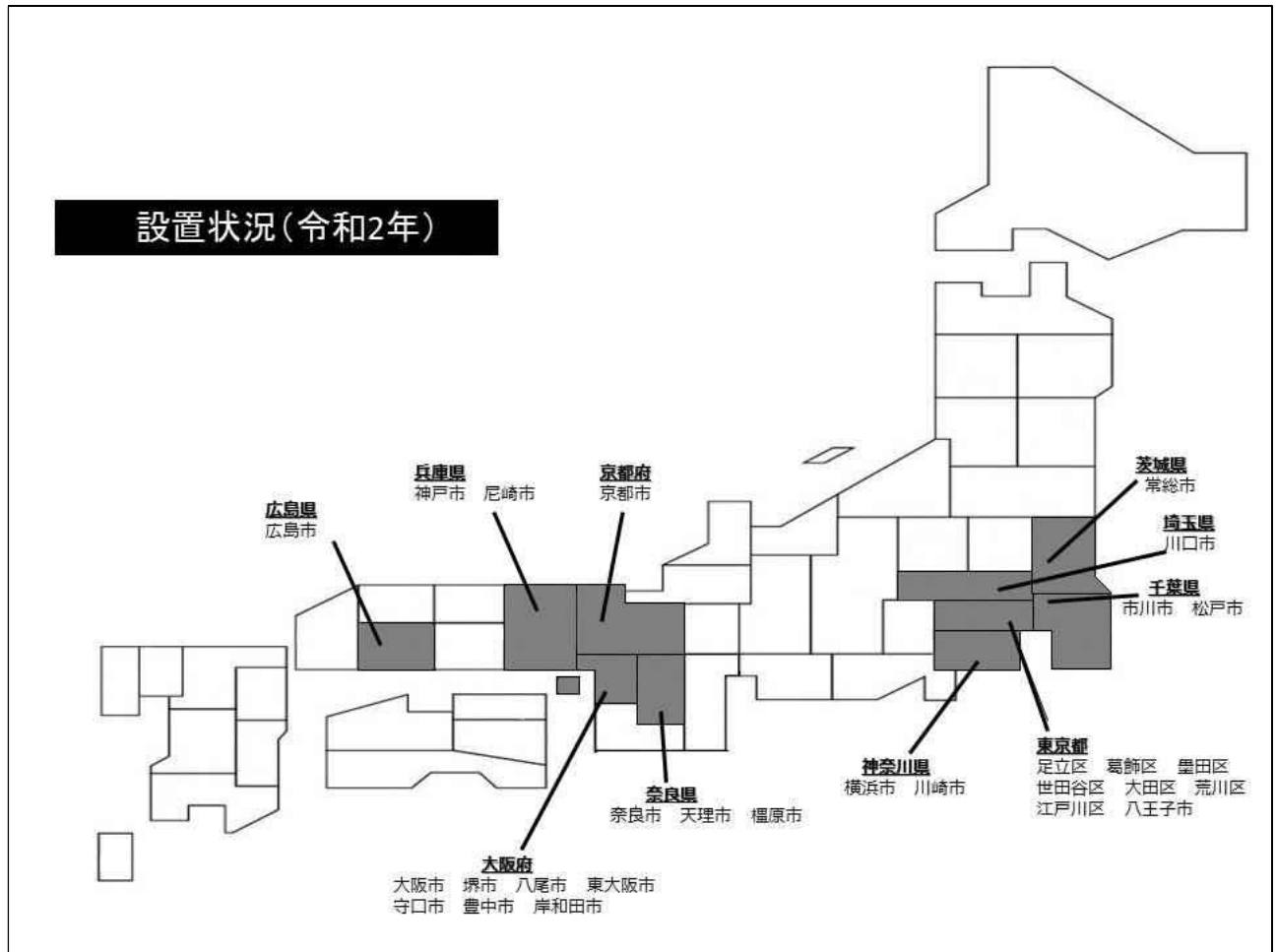
<sup>9</sup> 特別活動

中学校学習指導要領で示されている特別活動とは、学級活動、生徒会活動、学校行事の三つのこと。

<sup>10</sup> 教育課程の特例（詳細は資料 2 及び 3 を参照）

公立夜間中学に在籍する学齢経過者に対して、小学校段階の教科の取り扱いや授業時数の削減等を認める特例。

★ 公立夜間中学の設置状況（令和2年度）



(出典：文部科学省「夜間中学の設置促進・充実について」  
 (https://www.mext.go.jp/a\_menu/shotou/yakan/index.htm))

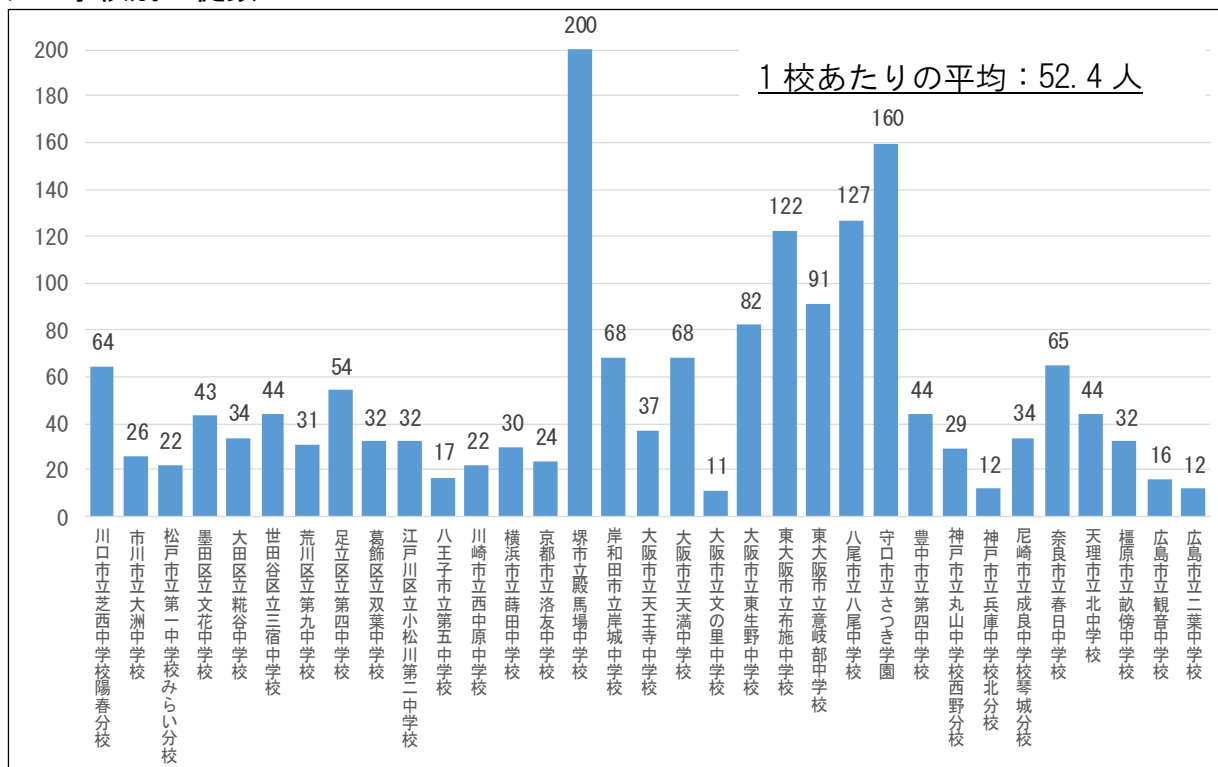
### 3 全国の公立夜間中学の状況

文部科学省が令和元年度に行った実態調査において、全国に設置されている公立夜間中学の状況は、次のようになっております。

(出典：文部科学省「令和元年度夜間中学等に関する実態調査」、調査時点：令和2年1月1日)  
 (https://www.mext.go.jp/content/20200619-mxt\_syoto02-100003094\_111.pdf)

#### (1) 学校規模、体制

##### ア 学校別生徒数



##### イ 公立夜間中学に配置されている教職員数

(回答対象校 33 校、下表は主な職員抜粋)

	校長	副校長・ 教頭	教諭 (※1)	養護教諭 (※2)	事務職員	用務員
専任	0	30	237	27	9	12
兼任	33	5	9	3	10	6
総数	33	35	246	30	19	18
平均(専任)	0	0.91	7.18	0.82	0.27	0.36

※1 上表の教諭は主幹教諭、指導教諭、教諭、常勤講師を合わせた数

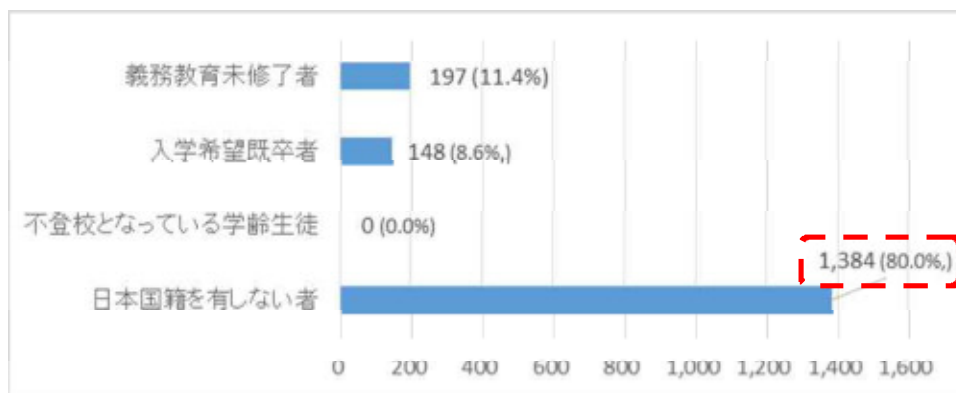
※2 上表の養護教諭は養護教諭、養護助教諭を足し合わせた数

一校平均の生徒数は 52.4 名と小規模な学校が多く、専任の管理職 1 名と教員 7～8 名程度、養護教諭 1 名の体制が一般的となっています。



(2) 在籍生徒の状況

ア 属性別の生徒数（公立夜間中学に通う生徒数：1729人）



全国の公立夜間中学においては、在籍生徒の8割が日本国籍を有しない方になっています。

イ 年齢別の生徒数（（）内は生徒数合計を100%とした場合の割合）

① 年齢別の生徒数（総数）

	学齢期	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	合計
男	0	198	154	79	54	31	85	601
	(0.0%)	(11.5%)	(8.9%)	(4.6%)	(3.1%)	(1.8%)	(4.9%)	(34.8%)
女	0	132	187	179	161	150	319	1,128
	(0.0%)	(7.6%)	(10.8%)	(10.4%)	(9.3%)	(8.7%)	(18.4%)	(65.2%)
合計	0	330	341	258	215	181	404	1,729
	(0.0%)	(19.1%)	(19.7%)	(14.9%)	(12.4%)	(10.5%)	(23.4%)	(100.0%)

② 日本国籍を有する者の年齢別生徒数（上表①の内数）

	学齢期	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	合計
男	0	29	13	8	14	12	57	133
	(0.0%)	(1.7%)	(0.7%)	(0.5%)	(0.8%)	(0.7%)	(3.3%)	(7.7%)
女	0	18	14	10	18	21	131	212
	(0.0%)	(1.0%)	(0.8%)	(0.6%)	(1.0%)	(1.2%)	(7.6%)	(12.2%)
合計	0	47	27	18	32	33	188	345
	(0.0%)	(2.7%)	(1.6%)	(1.0%)	(1.9%)	(1.9%)	(10.9%)	(20.0%)

③ 日本国籍を有しない者の年齢別生徒数（上表①の内数）

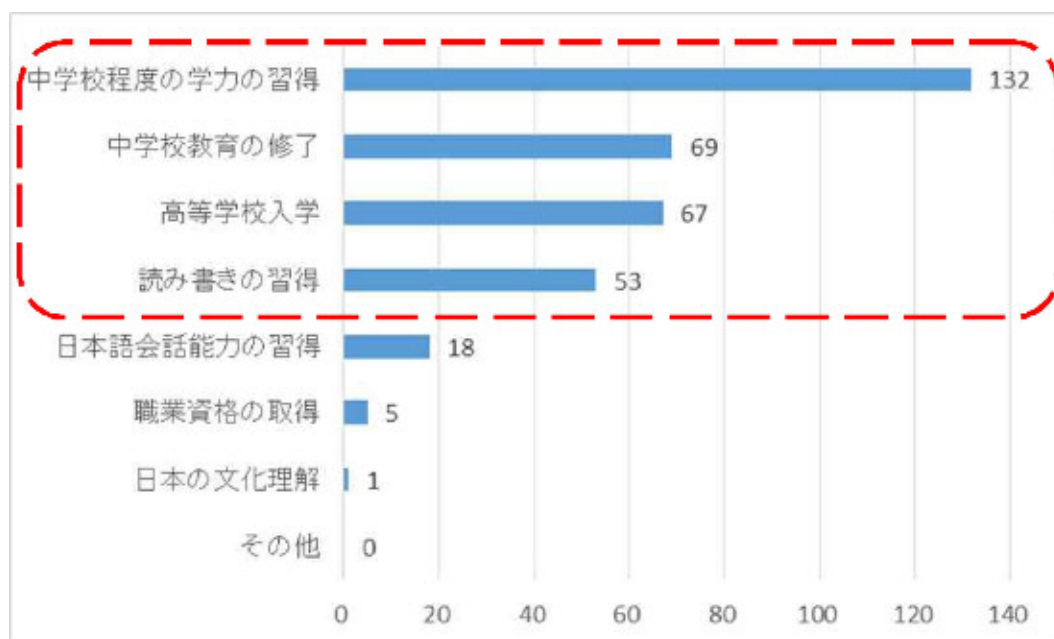
	学齢期	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	合計
男	0	169	141	71	40	19	28	468
	(0.0%)	(9.8%)	(8.2%)	(4.1%)	(2.3%)	(1.1%)	(1.6%)	(27.1%)
女	0	114	173	169	143	129	188	916
	(0.0%)	(6.6%)	(10.0%)	(9.8%)	(8.3%)	(7.5%)	(10.8%)	(53.0%)
合計	0	283	314	240	183	148	216	1,384
	(0.0%)	(16.4%)	(18.1%)	(13.9%)	(10.5%)	(8.6%)	(12.5%)	(80.0%)

日本国籍在籍者においては、60歳以上の比率が高くはなっていますが、どの世代においても一定数の在籍があります。

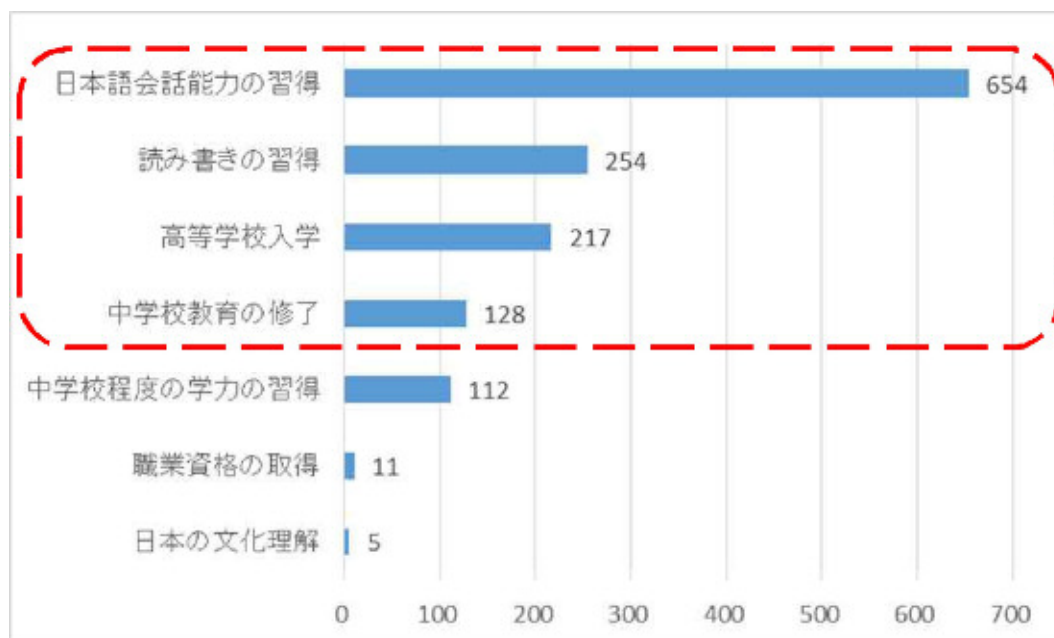
## ウ 公立夜間中学への入学理由

高等学校入学	職業資格の取得	中学校教育の修了	中学校程度の学力の習得	読み書きの習得	日本語会話能力の習得	日本の文化理解	その他	合計
284	16	197	244	307	672	6	3	1,729
(16.4%)	(0.9%)	(11.4%)	(14.1%)	(17.8%)	(38.9%)	(0.3%)	(0.2%)	(100.0%)

### ① 上表のうち日本国籍



### ② 上表のうち日本国籍を有しない者



日本国籍、日本国籍を有しない者ともに「中学校教育の修了」や「高等学校入学」、「読み書きの習得」という動機を持つ人が多くなっていますが、日本国籍においては、「中学校程度の学力の習得」が比較的高い動機となっており、日本国籍を有しない者においては、「日本語会話能力の習得」が比較的高い動機となっています。

エ 公立夜間中学卒業後の状況（平成 30 年度に夜間中学を卒業した生徒数：262 人）

卒業後の状況別	日本国籍	日本国籍を有しない者	合計
高等学校進学	27	127	154
	(10.3%)	(48.5%)	(58.8%)
専修学校進学	0	2	2
	(0.0%)	(0.8%)	(0.8%)
就職	3	36	39
	(1.1%)	(13.7%)	(14.9%)
その他	15	52	67
	(5.7%)	(19.8%)	(25.6%)
合計	45	217	262
	(17.2%)	(82.8%)	(100.0%)

※（）内は平成 30 年度に夜間中学を卒業した生徒数を 100%とした場合の割合

全体で見ると、卒業者の 7 割以上が進学や就職といった次のステップに繋がっています（日本国籍だけ見ても、6 割以上の卒業生が次のステップに繋がっています）。

(3) 全国の公立夜間中学の状況のまとめ

- ・公立夜間中学は小規模校が多く、生徒規模は平均すると 52 名程度、教職員の体制は全体で 10 名程度となっています。
- ・公立夜間中学の在籍者は、義務教育未修了者、入学希望既卒者（いわゆる不登校経験者等）、外国籍生徒になり、その中でも特に、外国籍生徒の在籍が 8 割程度と非常に多くなっています。
- ・在籍者の年齢層は、日本国籍を有する者においては、比較的高年齢層が多くなっておりますが、どの世代も一定程度在籍しています。
- ・入学理由については、日本国籍の方と外国籍の方で異なります。
- ・卒業生の 7 割程度は、高校進学や就職という次のステップに繋がっています。

### Ⅲ 公立夜間中学に対するニーズについて（市民アンケート調査結果）

札幌市教育委員会では、公立夜間中学の検討を進めるに当たって、以下のとおり、入学の可能性のある方などに対し、令和2年1～2月にアンケートを実施しました。

#### 1 目的

- 公立夜間中学に入学可能性のある方の人数の把握
- 公立夜間中学に期待する内容の把握

#### 2 アンケートの実施方法

##### (1) アンケートA

札幌の自主夜間中学や不登校経験者への支援団体などの協力を得て、入学可能性の比較的高い方を対象にアンケートを実施。

※ その他すべての方を対象に札幌市ホームページ上でもアンケート調査を実施

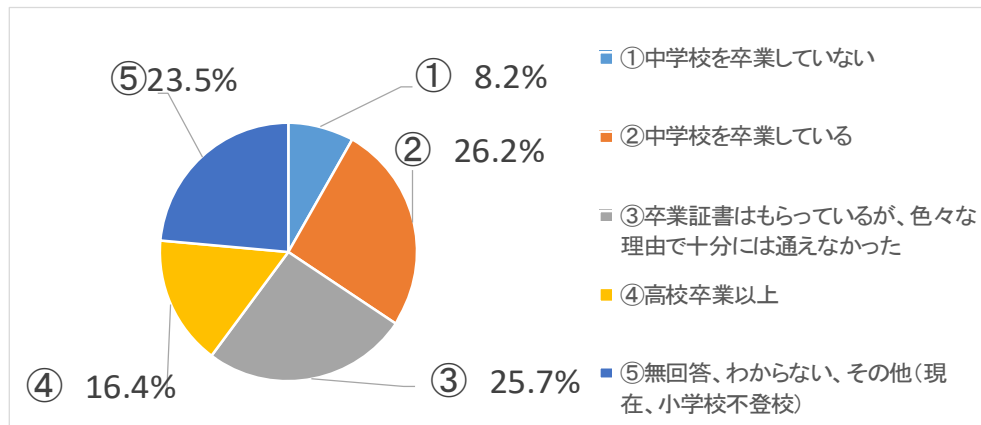
##### (2) アンケートB

札幌市に住民票のある外国籍市民のうち、無作為抽出した 3,000 人の方にアンケート用紙を送付して調査を実施（言語は日本語、英語、中国語）

#### 3 調査結果

##### (1) アンケートA

ア あなたは中学校を卒業していますか。

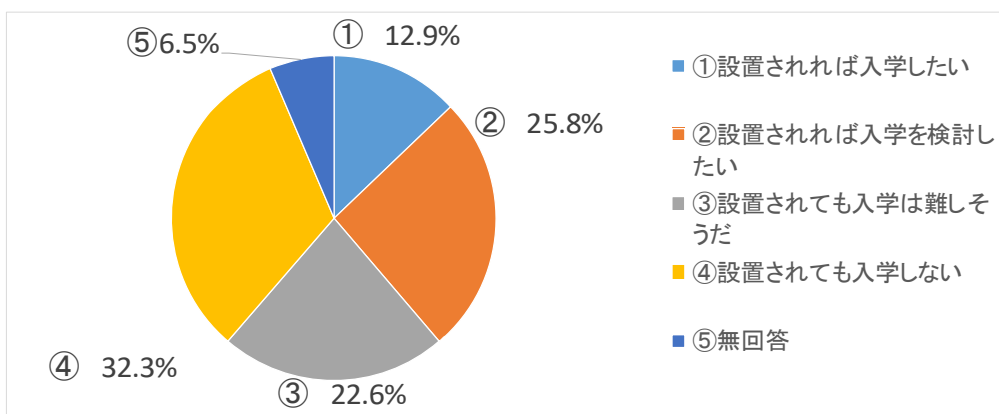


世代によってニーズが異なることから、高年齢層（60歳以上）とその他世代を分けて表示します

選択肢	全体回答		年齢別内訳		
			高年齢層	その他世代	無回答
① 中学校を卒業していない	15	8.2%	14	1	
② 中学校を卒業している	48	26.2%	42	4	2
③ 卒業証書はもらっているが、色々な理由で十分には通えなかった（若しくは現在通っていない）	47	25.7%	7	39	1
④ 高校卒業以上	30	16.4%	24	6	
⑤ 無回答、わからない、その他（現在、小学校不登校）	43	23.5%	3	36	4
合計	183	100.0%	90	86	7

イ 公立夜間中学が設置されれば入学したいと思いますか。

※ 設問アで①又は③と回答した方（十分に中学校で学べなかった方）を抽出



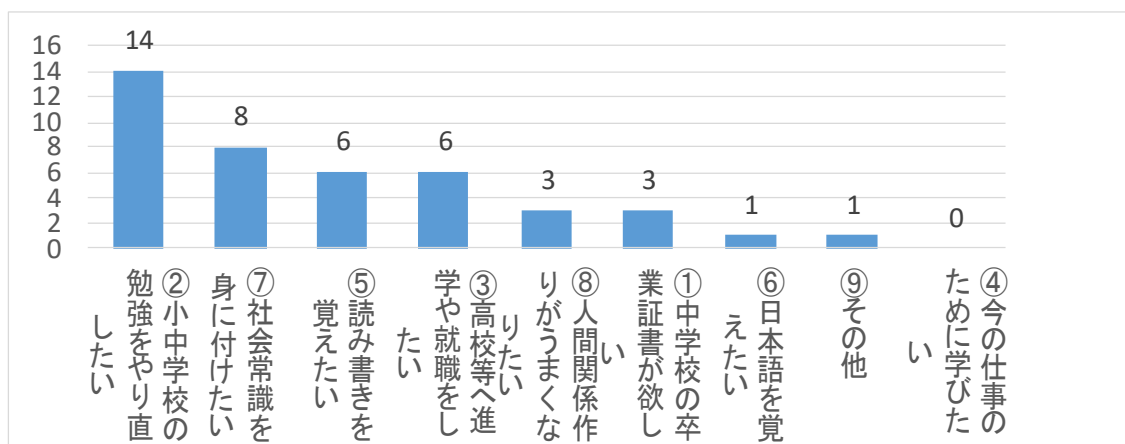
選択肢	回答			年齢別内訳			
				高年齢層		その他世代	
①設置されれば入学したい	8	12.9%	(21)	7	(14)	1	(7)
②設置されれば入学を検討したい	16	25.8%	(38)	3	(13)	13	(23)
③設置されても入学は難しそうだ	14	22.6%	(45)	6	(33)	8	(12)
④設置されても入学しない	20	32.3%	(51)	5	(21)	15	(28)
⑤無回答	4	6.5%	(28)	0	(9)	4	(16)
合計	62	100.0%	(183)	21	(90)	41	(86)

※ ( ) 内は回答総数

⇒ 一般的に夜間中学の入学対象とされる「十分に中学校で学べなかった方」だけでも24名の方が入学に前向きな回答をしており、公立夜間中学へのニーズは一定程度あることが確認できます。

ウ 入学を前向きに考えてみたい方に伺います。その理由を教えてください。(複数回答可)

※ 設問(1)アで①又は③と回答した方(十分に中学校で学べなかった方)を抽出



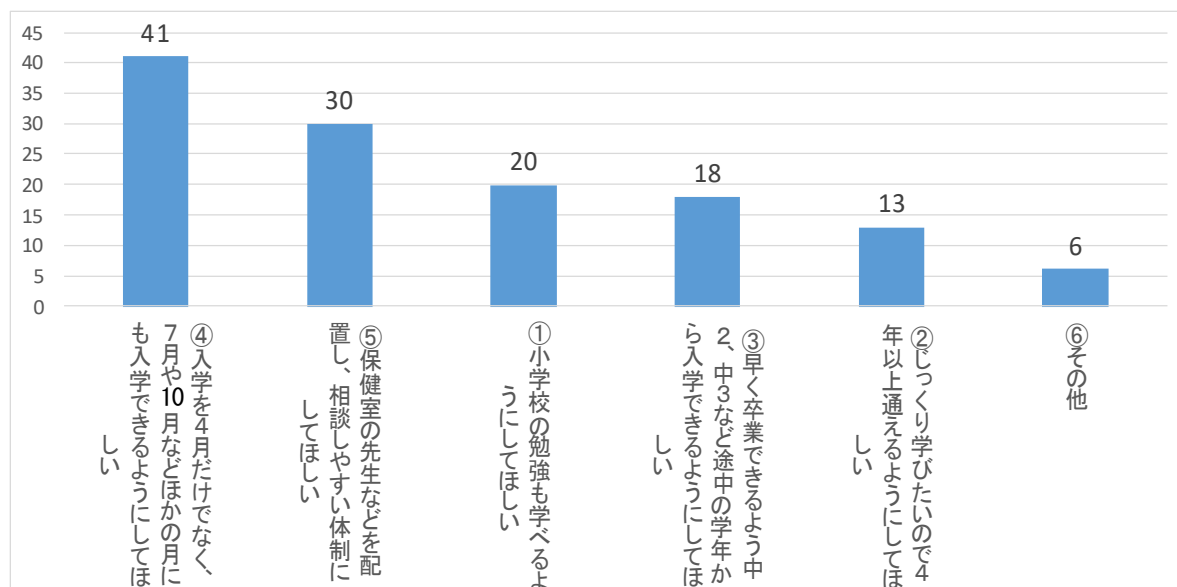
選択肢	回答			年齢別内訳	
				高年齢層	その他世代
① 中学校の卒業証書が欲しい	3	7.1%	(3)	2 (2)	1 (1)
② 小中学校の勉強をやり直したい	14	33.3%	(38)	8 (20)	6 (16)
③ 高校等へ進学や就職をしたい	6	14.3%	(13)	1 (2)	5 (11)
④ 今の仕事のために学びたい	0	0.0%	(5)	0 (0)	0 (4)
⑤ 読み書きを覚えたい	6	14.3%	(20)	6 (16)	0 (2)
⑥ 日本語を覚えたい	1	2.4%	(6)	1 (3)	0 (2)
⑦ 社会常識を身に付けたい	8	19.0%	(23)	5 (13)	3 (8)
⑧ 人間関係づくりがうまくなりたい	3	7.1%	(15)	1 (5)	2 (8)
⑨ その他	1	2.4%	(4)	1 (3)	0 (0)
合計	42	100.0%	(127)	25 (64)	17 (52)

※ ( )内は回答総数

⇒ 入学希望者においては、「小中学校の勉強をやり直したい」というニーズに加え、高年齢層は「読み書きを覚えたい」というニーズ、その他世代においては、「高校等への進学や就職をしたい」というニーズが比較的高くなっており、世代によって夜間中学に求めるものに違いがあることが読み取れます。

エ 公立夜間中学で実現してほしいことはどのようなことですか。以下の中から3つまで選んでください。

※ 設問（1）アで①又は③と回答した方（十分に中学校で学べなかった方）を抽出



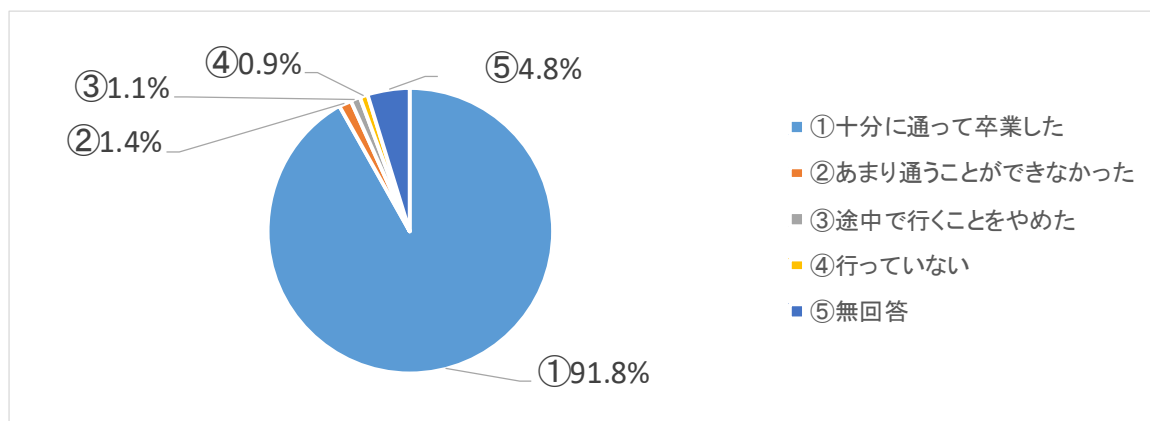
選択肢	回答			年齢別内訳			
				高年齢層		その他世代	
①小学校の勉強も学べるようにしてほしい	20	15.6%	(42)	9	(20)	11	(21)
②じっくり学びたいので4年以上通えるようにしてほしい	13	10.2%	(31)	8	(20)	5	(11)
③早く卒業できるように中2、中3など途中の学年から入学できるようにしてほしい	18	14.1%	(39)	3	(7)	15	(30)
④入学を4月だけでなく、7月や10月などほかの月にも入学できるようにしてほしい	41	32.0%	(86)	7	(22)	34	(61)
⑤保健室の先生などを配置し、相談しやすい体制にほしい	30	23.4%	(64)	3	(13)	27	(48)
⑥その他	6	4.7%	(8)	1	(3)	5	(5)
合計	128	100.0%	(270)	31	(85)	97	(176)

※ （）内は回答総数

⇒ 年齢層にかかわらず、柔軟な入学時期（④）については、高いニーズを示しています。また、高年齢層の方のニーズは、「小学校の勉強も学べるようにしてほしい」（①）や「じっくりと学びたい」（②）、その他世代のニーズは「自らの状況にあった入学の仕組み」（③）や相談体制の充実（⑤）が高くなっています。

## (2) アンケートB

ア あなたの中学校段階（13～15 歳ころに通っていた学校、母国の学校など日本以外の学校も含みます）の通学状況を教えてください。

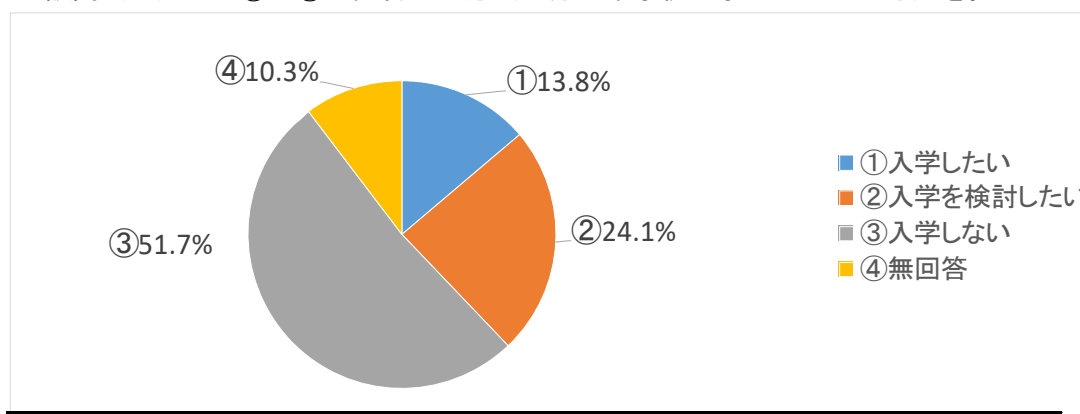


選択肢	全体回答	
①十分に通って卒業した	769	91.8%
②あまり通うことができなかった	12	1.4%
③途中で行くことをやめた	9	1.1%
④行っていない	8	0.9%
⑤無回答	40	4.8%
合計	838	100.0%



イ 札幌市は、夜に通うことができる、15歳以上の人の学び直しのための中学校を2022年に設置する予定です（授業時間は17時30分～21時頃）。あなたはこの学校に通いたいと思いますか。

※ 設問（2）アで②～④と回答した方（十分に中学校で学べなかった方）を抽出



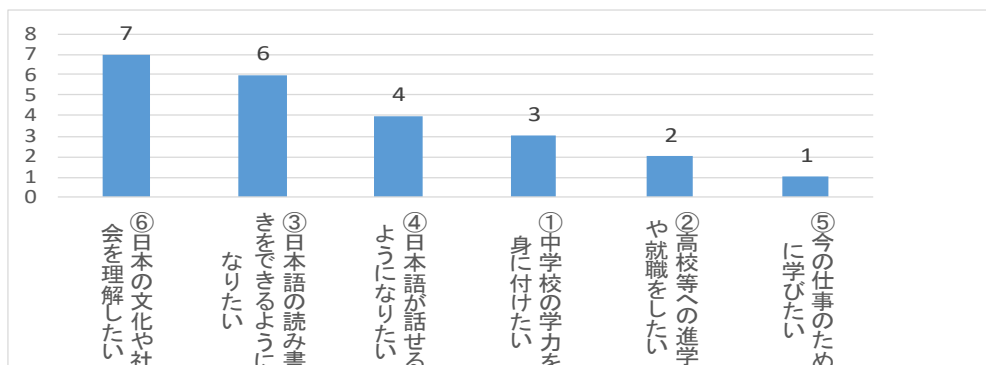
選択肢	回答		
①入学したい	4	13.8%	(61)
②入学を検討したい	7	24.1%	(146)
③入学しない	15	51.7%	(573)
④無回答	3	10.3%	(58)
合計	29	100.0%	(838)

※ （）内は回答総数

⇒ 一般的な入学対象とされる「十分に中学校で学べなかった方」を入学対象として仮定すると、一定のニーズは確認できる一方で、本市においては、十分に中学校で学べなかった外国籍の方の割合は多くないことが読み取れます。

ウ 公立夜間中学に入学したい、または入学を検討したい理由はなんですか。（複数回答可）

※ 設問（２）アで②～④と回答した方（十分に中学校で学べなかった方）を抽出



選択肢	回答		
① 中学校の学力を身に付けたい	3	13.0%	(16)
② 高校等へ進学や就職をしたい	2	8.7%	(19)
③ 日本語の読み書きをできるようになりたい	6	26.1%	(114)
④ 日本語が話せるようになりたい	4	17.4%	(122)
⑤ 今の仕事のために学びたい	1	4.3%	(67)
⑥ 日本の文化や社会を理解したい	7	30.4%	(134)
⑦ その他	0	0.0%	(9)
無回答	0	0.0%	(2)
合計	23	100.0%	(483)

※ ( ) 内は回答総数

⇒ 外国籍市民の方のニーズとしては、日本の文化や社会の理解（⑥）、日本語の読み書き（③）、日本語会話能力の習得（④）が比較的高いことが確認できます。

### (3) 札幌市教育委員会が実施したアンケートのまとめ

- ・ 高年齢層（未就学者を含む）、その他世代層（主に不登校経験層と想定）、外国籍層のすべての層に一定のニーズがあると思われます。
- ・ 一方で、一般的に入学対象とされる「十分に中学校で学べなかった方」を入学対象として仮定すると、他都市のように外国籍生徒が8割を占めることにはならないものと想定されます（どの層も一定程度在籍する可能性が高いものと思われます）。
- ・ 高年齢層、その他世代層、外国籍層はそれぞれ、公立夜間中学に求めるニーズに違いがあることがわかりました。